

市民フロンティア



URL <http://www.cskobe.com/> E-MAIL info@cskobe.com 発行人：中村順子 編集人：岡本雅士

東日本大震災支援

岩手県大槌町に、



待望の住民助け合い団体「新生おおつち」誕生

外部支援者が引き上げた後も、自主的に地域課題の解決に向けて活動できる当事者団体の設立は、当初からの目標であり切望していたところです。その願いが見事に結実、住民による助け合い団体「新生おおつち」が誕生しました。CS神戸/中村順子はさわやか福祉財団理事・インストラクターの立場で、大槌プロジェクトリーダーとしてかかわってきています。さわやか福祉財団では、東北の被災地で、最後まで自宅で安心して暮らせる「地域包括ケアの町」を実現すべく、他に釜石市・山元町・石巻市・大船渡市・気仙沼市・南三陸町を重点的に支援しています。

* 岩手県大槌町は、現在の人口推計約1万人、仮設住宅2千戸、町の施設の大半が流出した激甚被災町です。

■これまでの経過

2011年9月から、さわやか福祉財団（理事長：堀田力氏）と共に、現地に縁を得て支援活動を開始、この1年間に15回訪問し、支援活動をしてきました。

当初から、大槌町社会福祉協議会と関係を結び、LSA(生活支援相談員)研修を皮切りに、住民主体の笑いの弁当会や男の調理教室を協働スタイルで開催し、復興活動をすすめてきました。それらのプログラムも自律的に開催されるようになっていきます。

2012年5月末には「大槌町の未来を考える宿泊勉強会」で、住民80名と、復興基本計画の確認と同時に、自分達に出来るコミュニティ活動について意見交換をしてきました。皆さんから多く出されたのは、「一刻も早い復興を」「1日遅れると1年遅れる」「小さなことでもみなが出来てをやり始めよう」といった危機感と同時に切実なほど前向きな姿勢でした。公式の復興住民会議では意見が反映されにくい、女性や若者からも意見を拾い「住民からの提言」にまとめ、碓川町長に説明し提案してきたところです。

【主な支援活動】*以下の支援活動でかかった経費は、さわやか福祉財団に寄せられた義援金で応援を得ました。

- ①地域プログラム(LSA研修・男の調理教室・笑いの弁当会)の実施
- ②復興支援者・事業関係者会議 3回
- ③宿泊勉強会の実施 80名
- ④地域フォーラム(4回)と大フォーラム(1回:200名)の実施
- ⑤「新生おおつち」の立上げ
- ⑥町長への提言 3回
- ⑦華ぼっくりの販売支援 200個



華ぼっくり



8月29日 復興共生フォーラム in 大槌

■「新生おおつち」の誕生

これらの一連の動きの中で誕生したのが「新生おおつち」です。支援される側が支援する側に廻り、地域内の被災者の生活ニーズに応えることを基本としています。“お互い様”の心で助け合い、最後まで自宅で安心して暮らせる環境を自ら創り上げていくのです。

「新生おおつち」の事業計画は3本柱で構成されています。1つは、住民による住民のための助け合いである生活見守り事業、2つは、住民のつながりづくりと小さな生産活動として華ぼっくり(赤松ぼっくりに布の細工でブローチ等に加工)の制作販売など、そして3つ目が行政はじめ既存の団体や機関と連携しながら復興を推進する協働事業となっています。すなわち、これこそ住民自らが立てた復興事業計画に他なりません。

次にそのメンバーをご紹介します。

会長越田勝氏は、65歳、元大槌町消防署職員で、震災直後から率先して救出活動にあたり、比較的被害の少なかった地区に近隣の方々とまごころネット「かものはし」救援基地を設置、被災者のがれき撤去や通院介助、仮設住宅での男の調理教室など精力的に取り組んできておられます。その越田さんのもとに佐々木亮さん、小向祥子さん、中嶋高弘さん、新田左千夫さんなど10名程が中核となって丸ごと支援を既に展開中です。現在会員は40名程度、20歳代～80歳まで皆さん大槌住民であり、多くは仮設住宅暮らしで大きな被害を被った方ばかりです。ハードの復興計画は、未だに街全体が建築基礎部分だけが残る状況から何ら進展していませんが、被災者の復興活動は日々進化しています。

■今後の支援に向けて……来年1月17日に神戸へ招聘！

住民の自立的な活動を応援してきた立場として、阪神・淡路での小さなCB（コミュニティビジネス）実践や居場所の運営など、コミュニティエンパワーメントを行う活動や経験を、大槌町の方に実際に見聞してほしいと思っています。来年の1月17日あたりが最適でしょうか。丁度、小ホールでは1月19日に「1.17は忘れない」地域イベントを企画しています。モデルがあれば、「自分たちもここまで出来る！」という実感が確信となりパワーとなります。阪神・淡路の復興プロセスを見聞していただきながら、現地での住民共助の助け合い活動に結び付けてほしいと願っています。中核メンバーの8名の方を招聘するため、助成金など資金調達に取り掛かる準備に入ります。

もちろん、この間にも現地からの要請に応じ、出勤する態勢は継続します。また、大好評の“華ぼっくり”販売は、次の新バージョンを楽しみに支援活動を継続します。（中村）



心をこめて、華ぼっくりを作っています

コミュニティ・ビジネス<CB> フォーラム（ワラビー）

～ これからの将来を拓く起業家たちへのメッセージ ～



大勢の参加者であふれ、大盛況でした

9月15日（土）、生きがいごとサポートセンター6団体と日本政策金融公庫の共催で、「ひょうごコミュニティ・ビジネスフォーラム ～これからの将来を拓く起業家たち～」を三宮の国際会館セミナー室で開催しました。聴講者があふれ、急遽、椅子を運び込むほどの大盛況でした。

今年のフォーラムは、1部が基調講演、2部は実際に一步踏み出すきっかけとなるよう分科会形式で行いました。関心の高い福祉・まちづくり・子育て支援の分科会に加え、事例紹介や資金調達のブースもあり、参加者からは「あれもこれも参加したく、迷ってしまう」という声も多く、CBへの関心の高まりが肌で感じられるフォーラムとなりました。以下、(株)ケアーズ・白十字訪問看護ステーション（東京）の秋山さんによる基調講演「命の輝きを引き出す在宅ケアを行うために」の要点をご報告します。（狩野）

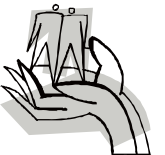
2つ上の姉が余命1ヶ月の肝臓がんになり、在宅ケアは考えられなかった当時に、色々な人たちの力を借りて4ヵ月半を家族と共に過ごせました。この経験から、これからは家で過ごす人たちへの看護で役に立ちたいと思い、看護学校の講師から訪問看護に変わりました。

医療の目的は「死なせない」ということでしたが、今は健康で生きる時間、生活の質が重要で、病気や障がいを持っても生き活きと生き、穏やかに人生を終えるところまで「支える」医療が求められています。ちょっとした季節の気配、食事がおいしく感じられるなど、生きている喜びはそこかしこにあります。生活の中に医療が入っていき、予防から看取りまで医療と介護を一体的に提供することが必要です。

起業のきっかけは、勤務していた訪問看護事業を運営する医療法人が解散し、やりたい看護ができなくなったことです。私たちが必要とする人もいたので、続けたいという強い意志がありました。一番大事なことは患者さんとそのご家族が困ることがないように、同じサービスを継続して行うため最短で立ち上げることでした。

銀行のアポイントも、すぐにはうんと言ってもらえず、自分としては社会的責任を果たしてきたつもりでも、お金が絡む世界では信用がなく苦労しました。融資や様々な制度を活用して、資金繰りギリギリで始めました。現場を抱えながらの準備でしたので、会計士の方に手伝ってもらいましたが、そのおかげで早く事業をスタートすることができました。様々な人のネットワークの力を借りながら前に進む交渉術は大変勉強になりました。また制度の隙間を埋めるためにはボランティアの力が重要だと考え、NPOも立ち上げました。病院とは異なる温かい雰囲気の中で相談支援をしています。

私はやむを得ない状況で起業することになりましたが、在宅で暮らす人の笑顔に支えられてきました。つながる力を信じて歩み、在宅で命に寄り添うケアを提供していきます。





JR住吉駅前自転車駐車場 (神戸市指定管理事業)

～ NPOとしての地域貢献 ～ (クリーン作戦&めいわく駐輪キャンペーン)

2005年度より受託している当事業は2012年度で2期目(8年)が終了しますが、一般公募の結果2013年～2016年度(3期目)についても、引き続きCS神戸が指定管理者として事業を運営することが決定いたしました。駐輪場の指定管理者の多くは株式会社ですが、NPOの管理する駐輪場として、利用者満足度の向上はもちろんのこと、地域に貢献できる存在でこれからもあり続けたいと思っています。(岡本)

クリーン作戦



7月23日、クリーン作戦と題した一斉清掃を実施しました。駅の北側にある地下の駐輪場では、駐輪スペースと階段、そして窓ガラスを丹念に水拭きを行い、駅の南側にある屋外駐輪場では、周辺の草抜きとフラワーポットの剪定を中心に行いました。また神戸市からいただいた花の苗の植えつけもしました。今後も、駅前の顔である駐輪場を清潔に保つことで、地域の美化に努めていきたいと思っています。

めいわく駐輪キャンペーン

9月27日、東灘警察署、神戸市東部建設事務所と一緒に「自転車安全利用啓発キャンペーン」を行いました。秋の交通安全運動の一環で実施されたイベントで、当日はJR住吉駅周辺を南北2チームに分かれて巡回し、放置車両にマナー札を貼ったり、通行されている方々に対して、自転車・バイクのめいわく駐輪防止にご協力いただくようビラを配りました。今後も定期的に参加したいと考えています。



東灘区民センター小ホール・魚崎 (神戸市指定管理事業)

～東灘区民カレッジ。好評につき本年度も実施します～



講座風景

市民の方々の持つ豊かな知識、アイデアや技術を、広く近隣の皆さんに分ち合せて頂くため、ワンコイン(500円)で受講できる講座を開催しています。

2011年度12月からスタート。11年度は14の講座を実施し計19回、延べ124人の方々に受講していただきました。そこで2012年度も、16名の講師の方々をお迎えして引き続き開催することになりました。からだを動かすこと、手工芸、香りを楽しむこと、健康やダイエット、詩の朗読……、などバラエティ豊かな内容の講座を準備しています。(兵頭)



No.	講師	2012年度の講座予定	日程
1	高木桂子	簡単エクササイズ(体操)で脳からリフレッシュ	11/19、12/3、17(月)
2	岡 みちこ	初めての手織り	11/20、12/4、18(火)
3	中野恭子	トールペイント「ポインセチアの壁飾り」をつくりましょう	11/25(日)
4	増井弥生	フラワーアレンジ入門	11/27(火)
5	石原けい子	中高年の椅子に座ってらくらく体操	12/5(水)
6	山本玲子	お家で簡単アロマセラピー～自然の力で健康に～	12/11(火)
7	高橋ゆかり	声に出して読む茨木のり子の世界	12/13(木)
8	森本幸子	自分でできる簡単リンパマッサージ	12/16(日)
9	田中豊茂	武家の家紋に探る我が家のルーツ	1/20、2/3、17(日)
10	増田初美	安心・安全な食生活、食事で上手にダイエット 高齢者の栄養と食事	1/21(月)
11	乾嘉重	「頭」を使って楽々ダイエット	1/23、2/27(水)
12	土井香織	バラとビーズで飾るポケットティッシュ	1/27(日)
13	池上泰好	赤ちゃんの名前のつけ方	2/11(月・祝)
14	井上葉子	パーソナルカラーで印象アップ	2/15(金)
15	濱本美佐子	コミュニケーション「楽」ラクセミナー～あなたが笑えばみんながHAPPY!～	2/4(月)
16	高倉知子	山の幸染め体験	2/9(土)



つなごう神戸事業 (兵庫県地域づくり活動支援事業)

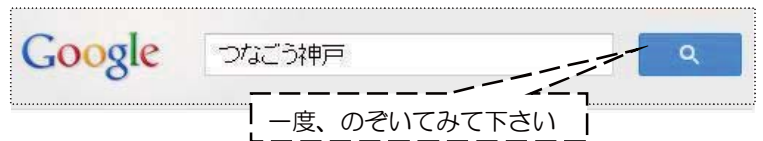
～ 他団体と協働した、情報提供事業としての成長を目指して ～

つなごう神戸は、2011年度から2年間にわたって国が実施する「新しい公共支援事業」として取り組んできた事業で、NPO・行政・企業・大学等の市民活動に関する総合的なインターネット上の情報サイトです。ホームページに登録されている団体・個人が各種の情報を発信し（基本情報の他、ボランティア・イベント・講師派遣・寄付や寄贈など）、それらに参加・協力・利用したい方々との橋渡しを目的としています。また民間の企業や団体・神戸市及び各区・兵庫県・国が発信する支援・募集情報や関連情報も発信しています。運営は実行委員会方式で行っており、神戸市・神戸市社会福祉協議会・神戸大学・(株)キットシステム・NPO法人しゃらく・NPO法人ふぉーらいふが参加、CS神戸は事務局を担当しています。

2011年から検討と準備を進め、今年3月1日にホームページを開設しました。プレスリリースを実施した他、ダイレクトメール（約1400通）、チラシ配布（約1500部）、運営委員の人的ネットワークの活用、一斉配信メール、事務局による代行入力、ソーシャルメディアの利用（ツイッター・フェイスブック）など、限られた資金の中で最大限の人的資源とネットワークを用いて認知促進に努めてきました。

その結果7ヶ月を経過したいま、登録団体数は320団体近くになり、ボランティア等の各種情報は累計1400件、アクセス数は月間5000件を超えるまでになりました。特に行政関係の情報については、縦割りが指摘されている中で垣根を越えて情報を発信しており、他に例を見ない豊富な内容になっているものと自負しています。また神戸に本社を置く株式会社フェリシモ、株式会社日本政策金融公庫、生活協同組合コープこうべ様の協賛をいただくこともできました。

「新しい公共支援事業」による支援は7月末で終了しましたが、団体の協賛・助成、行政の補助金やCSR活動に関連した企業への情報提供などを通じて資金を確保し、他団体と協働した情報提供事業として、さらなる発展を目指していきたいと考えています。（岡本）



「地域密着型サービス（介護）」の 評価事業

～ 新たな介護評価事業へのチャレンジと需要の開拓 ～

標記事業の認証を本年の4月に受け、これまでの「介護サービス情報公表」の訪問調査の経験を生かし取り組む事になりました。兵庫県には、対象となる約300の地域密着型事業所（グループホーム<GH>と小規模多機能型居宅介護事業所）があります。これらの事業所は自ら第三者評価機関を選び、1回/年は評価を受けることが義務付けられています。一方、評価機関は自ら、受審希望の事業所を探すことから始めなければなりません。私たちの活動は、閉じこもってはいどこからも注文・依頼もありません。ほとんどの事業所は過去に受審した評価機関を利用するため、新参者としてCS神戸が参入する機会は全くないと言っても過言ではない状況です。そんな思いに抗して数ヶ月を過ごしましたが、現在では、1件のGHの評価を終了、さらに6件の事業所との契約を結ぶことができました。これもCS神戸のこれまでの地域への貢献、ならびに評価員の方々の努力の賜物であると感謝しております。本年度中には10件の評価を目標としておりますが、何とか達成できそうで、来年度に向けてさらに飛躍的な成長を考えていきます。

さて、この評価の特徴は、評価作業の一連の過程を事業者が主体的に取り組み、評価結果から具体的な改善に生かして、良質なサービス水準を確保し、さらなる向上を図っていくことです。評価作業においては、事前提出資料（事業所自らの自己評価資料、規定類）、並びに利用者のアンケート調査等を検討し、その後まる1日間の第三者評価機関による訪問調査に移ります。そして、両者の合意により目標設定を行い、自治体ならびにWAMNET（独立行政法人福祉医療機構が運営する福祉の総合情報サイト）へ公表することにより終了します。しかし、評価調査員はコンサルタントやスーパーバイザーではありません。現場で自己評価内容の事実を確認して、その気づきを伝え第三者評価とします。

その生まれは、事業者自らがサービスの質を改善することを目的にスタートし、2001年から自己評価を、2002年から外部評価を制度化することになりました。このように「サービス評価」は、事業者が生み出し、時代の変遷を見据えつつ制度の改正を重ねて育ててきたものです。私たち評価員は、事業所の「今」の現状を確認し、今後の質確保・向上を具体的に図っていくための「チャンス」を創るのにお役に立てばと考えております。（小林）

事務所入口にある第三者評価機関の看板



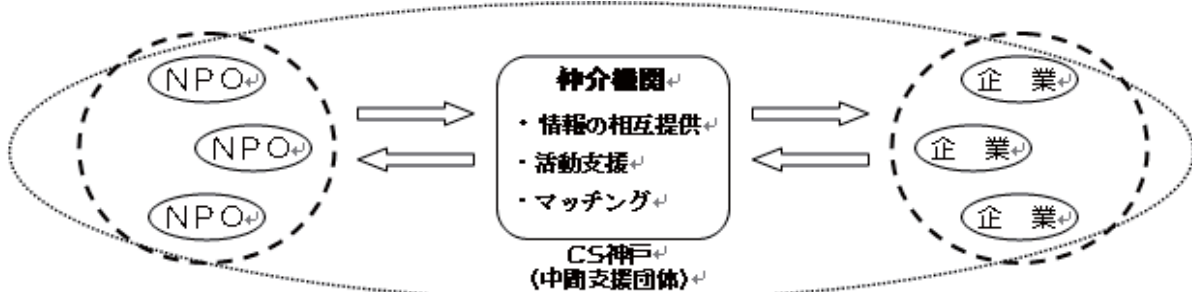
CSRヒアリング調査事業 (兵庫県自治学会助成事業)

～ NPOと企業との協働のためのメニュー作り ～

CSR（企業の社会的責任）という言葉もすっかり定着した感があり、企業はNPOにとって重要なセクターです。しかしまだまだ両者の協働事例は、限られた範囲にとどまっているのが現状です。そこでCS神戸では、中間支援団体としてその連携の可能性を探るべく、地域貢献活動に対して先進的な取り組みをしている企業を訪問してヒアリング調査を実施しています。最終的には様々な団体が協働を行うにあたって、参考となるような活動メニュー作りを行う計画です。

メンバーには、CS神戸監事の當間先生（兵庫県立大学経営学部教授）をはじめ、江口さん（NPO法人しみん基金・KOBE）、福本さん（NPO法人オーガニック・ライフ・コラボレーション）、そして昨年度CS神戸が実施した「プロボノワーカー養成講座」の参加者であった福田さん（福田司法書士事務所）の4名の方にもご参加いただいています。訪問先としては、上場企業・地場企業を含めて全部で20社程度を予定しており、現時点で14社のヒアリングが終了しています。

企業にしろ、NPOにしろ、社会貢献活動を担っていくためには、その目的実現のために自団体の持つどのような経営資源を提供しうるのか、というのが第一の命題です。一般に経営資源は「人」、「モノ」、「資金」や、「情報」、「知識・ノウハウ」ということになります。この経営資源ごとに、企業側は社会貢献としてどういう取組みを実施し、またNPOや中間支援組織側は何を実施するのか、或いは実施することができそうなのか、をヒアリングを通じて整理していく予定です。そしてその中で、次につながる具体的なパイロット事業の可能性を見つけていきたいと思っています。（岡本）



後期のインターンゼミがスタート！

社会貢献塾



～ 教室を飛び出して、視察ツアーへ ～

今年の6月からスタートした地域活動を総括的に学ぶ『社会貢献塾』。座学中心の前期（スタディゼミ）に引き続き、9月からは後期（インターンゼミ）が始まりました。教室を飛び出して、地域活動やコミュニティビジネス（CB）の現場を肌で感じていただくという趣旨のもと、9月20日にはCB視察ツアーへ出かけました。

まず1ヶ所目に訪問したのが、神戸市北区にある『NPO法人北区子育て支援センター』。廃園になった幼稚園舎を利用して、親子120組が集う子育て支援の拠点となっています。「最初は親子2組から始まった。利用者と一緒にってどんなサービスがあればいいのかわかり、共に考えてきた。大変なこともあったが、想いがあったからやってこれた」という竹村理事長の言葉が印象的でした。

2ヶ所目は三木市精愛園が運営する『カレーハウス maimoi』。就労の機会を得るのが難しい重度障がいのある人々11名が働いています。カレー大好きな某有名人も唸ったという絶品カレーをいただき、大満足でした。

最後は神戸市西区にある『Calfarm Kobe（キャルフーム神戸）』。まちづくりや人材育成の視点で農業を捉え、食育や研修事業などにも積極的に取り組んでいます。活動紹介・畑見学の後は、お楽しみの野菜の即売タイム。獲れたてのオクラや万願寺とうがらし等をお土産に購入しました。参加者からは、「社会を見る目が変わった気がする」、「リーダーの熱意を感じ、感銘を受けた」、「充実した1日だった。年に何度もやってほしい」といった声が聞かれました。（飛田）



※社会貢献塾や視察ツアーに関心がある方はCS神戸(078-841-0310)までお電話ください！

企画から起業まで総合的にサポート！

コミュニティビジネス実践講座

～地域を元気にする事業を立ち上げませんか？～

地域住民が主体的にビジネス手法を用いて課題の解決に取り組むコミュニティビジネス（CB）。その活動は、福祉、子育て、教育、環境、まちづくりなど多岐に渡っています。当講座は5日間の短期集中形式で、先進事例や事業計画の立て方を学ぶほか、専門相談員による個別相談も行います。若者から熟年代まで社会貢献や起業に関心のある多くの方のお申し込みをお待ちしています！

日程：11/30、12/7、12/14、12/21
いずれも金曜日午後と個別相談1日 全5日

講師：田村太郎氏

（一般財団法人ダイバーシティ研究所代表）

会場：神戸市勤労会館4階 405号室

費用：10,000円

定員：20名（先着順）

主催：公益財団法人神戸いきいき勤労財団

企画運営：NPO法人CS神戸

==お申し込み・お問い合わせ==

公益財団法人神戸いきいき勤労財団

神戸市中央区雲井通5丁目3-1 サンパル10階

TEL：078-251-5561 FAX：078-252-9448



丹波・篠山へ…！

農業系CB視察バスツアー

～農に関連するCB実践者の生の声が聞けます！～

丹波・篠山の生産者と神戸の消費者をつなぐ取り組みや、自家栽培の食材を活かしたレストランなど、農業とかわるCB実践者のお話を聞きます。いっしょに、自家栽培のお野菜を食べたり、農作業体験など、丹波・篠山の秋の実りを満喫しませんか？

日程：11/30（金）9:00～18:00

集合場所：CS神戸事務所前

視察先：①桜ファーム

野菜の流通で篠山の生産者と神戸の消費者をつないでいます。

②三心五観

丹波に移住し、体験型の農家レストランを立ち上げました。

費用：3,000円（昼食代込み）

定員：20名（先着順）

==お申し込み・お問い合わせ==

生きがいごとサポートセンター神戸東（ワラビー）

TEL：078-841-0387 FAX：078-841-0312



うおざき文化祭

市民の皆さまが、日頃の成果を披露します！



東灘区民センター小ホールを利用されている市民の方々が、日頃のお稽古や練習の成果を発表し、お互いの交流を行います。これまで小ホールのご利用のない方も、どのようなことをやっているのか、一度覗いてみて下さい。思わぬ驚きや発見があるかも……？

CS神戸の新しい取り組みです。乞うご期待！

日時：2012年11月18日（日）

午後1：00～4：00頃

場所：東灘区民センター小ホール（魚崎）

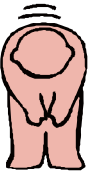
TEL：078-453-0151

見るだけなら
無料です！

会費・寄付・寄贈をいただき、
誠にありがとうございました

（期間 12年6/1～12年9/30、いずれも順不同・敬称略）

【会費】佐藤正義、尾山宗久、市井敬喜、森功、川上範男、坂本登増金祐次、加藤正博、根矢光二、岡田雅幸、佐野末夫、保科正彦、村山義弘、狩野仁未、朴京守、藤原和男、関口宏聡、武藤由美子、森田正純、大谷敏行、臼井隆夫、井上隆文、新庄達也、菅祥明、泉勇策、中村保佑、弓削一務、川悦孝、大日向郁夫、尼川洋子、伊谷須美子、直田春夫、西山八重子、瀬戸口延恵、宮下隆二、岡島貞雄、本田元彦、植戸貴子、井上雅晴、古結洋子、西村尚士、小島邦明、江口敬一、興口修、水船春美、櫻井繁樹、荻野俊子、高橋度角田敏子、中山照彦、小林るみ子、進藤啓子、上村隆夫、富田妙子、西池陽一、大西洋助、前東ふみ子、榎本かな、NPO法人いぶりたすけ愛、一般社団法人クルレ、NPO法人思いやり支援センターくまの、NPO法人阪神パソコンネット、NPO法人デイ・ステーションたるみ・ともの家、NPO法人すみよいくらしサポート



【寄付】中村順子、村山義弘、森田誠二、大谷敏行、菅祥明、榎本かな、飛田敦子、家城裕之、尼川洋子、瀬戸口延恵、櫻井繁樹、上村隆夫、西池陽一

■東日本大震災への募金・寄付について■

震災関連の募金につきましては、原則として募金箱に入金いただく形式にさせていただいており、お名前掲載はしていません。ご了承のほどよろしくお願いいたします。

2012年度の会員継続をお願いいたします！

市民活動を共に支えて下さる賛助会員（個人・団体）の方々を募集しております。

【会費】個人会員 3,000円/年、団体会員 10,000円/年

【振込先】名義 NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸

郵便振替 00950-2-144205

編集後記

CS神戸で仕事をしていると、ひとつの言動が思いもよらぬところにつながる場合があります。会社や行政にはないNPOならではの躍動感であり、面白さだと思っています。（O）